

東京経済大学報

2024 年度
第 57 卷 11 月臨時号



第 125 回葵祭レポート

北海道美瑛町・新潟県新発田市との交流企画実施報告

学生広報スタッフが行く！先生インタビュー

東経大で出会った「生涯の師」への手紙

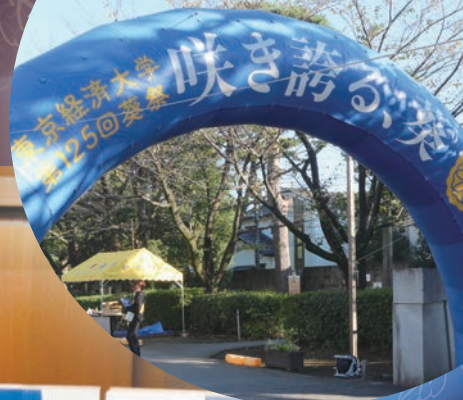
イマドキのTKU生

東京経済大学

来場者数 前夜祭 [1日(金)]: 754名
 本祭1日目 [2日(土)]: 2,814名
 本祭2日目 [3日(日)]: 3,812名

開祭式・オープニング

11/2(土)は10:00から4号館D101教室で開祭式が行われました。例年、開祭式は5号館前特設ステージで開催していますが、今年は雨天のため室内での実施となりました。登壇した岡本英男学長、上机美穂学生委員長、横山萌佳葵祭実行委員会副委員長、荻原潤菜学生会執行部会長より、大学祭成功の祈りを込めた挨拶が行われ、第125回葵祭の幕が開けました。オープニング企画では、バンドサークルによる生演奏やダンスサークルによる発表が行われました。国分寺市発フォーピースバンドTwisted Perverseは、今年の葵祭のテーマソングである「見逃したマジックアワー」を含めた4曲を演奏しました。またKPOPダンスサークル실연(シリョン)はダンスメドレーを、音楽連盟サークル・シンガーソングクリエイション(SSC)所属の有栖川尊さんが歌声を披露し、大いに盛り上がりを見せ、華やかな企画となりました。



模擬店・展示

6号館前や1号館では、各サークル・ゼミが模擬店の出店及び展示を行いました。模擬店活性化人気投票、展示団体表彰企画も行われました。

人気投票

展示部門 情報処理研究会
第1位 VR&自作ゲーム体験会

模擬店部門 RECRCO餃子
第1位



演武会

11/2(土)10:00から100周年記念館地下武道室で、柔道部・合気道部・少林寺拳法部による演武会が行われました。歴史ある各部の学生による演武は、会場が揺れるほどの迫力がありました。

編集後記

本祭1日目はあいにくの天気となりましたが、雨に負けずいろいろな各団体の模擬店も発表も盛り上がっていました！普段とは違う大学の雰囲気を感じることができ、学内をたくさん回り、東経大生のさまざまな活動を知ることができました！



学生広報スタッフ
 経営学部 1年
 齋藤 陽加

スノードーム

2号館B102教室ではオリジナルスノードーム作りが行われ、多くの親子連れで賑わいました。



第125回 葵祭りレポート

2024年11/1 (金) ~ 11/3 (日)

咲き誇る、葵

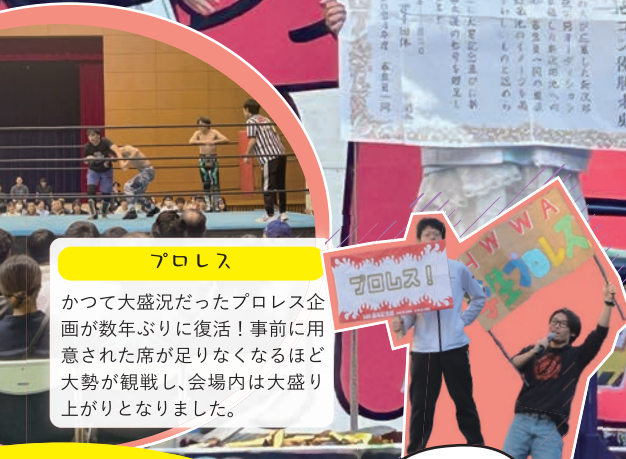
閉祭式・夜入ステージ

夜ステージは、本学ダンスサークル「Beginning Tribe」によるパフォーマンスでスタート。ロック、ブレイク、ガールズなど様々なジャンルのダンスを披露し、会場を盛り上げました。続いて行われたビンゴ大会は、豪華景品をかけて多くの学生や来場者が参加しました。閉祭式では、葵祭実行委員会委員長の村木快さん(現代法学部4年)が「雨天でのスタートとなったが、本祭2日目は天気も回復し、たくさんの方の協力を得て無事に開催できたことがとても嬉しかった。来年はさらにパワーアップした葵祭を楽しんでいただきたい」と涙ながらに語りました。



プロレス

かつて大盛況だったプロレス企画が数年ぶりに復活! 事前に用意された席が足りなくなるほど大勢が観戦し、会場内は大盛り上がりとなりました。

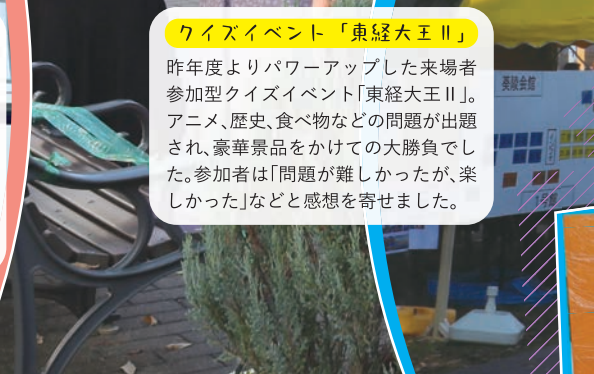


新次郎池親善大使 公開オーディション「池コン」

今年度、新次郎池親善大使に選ばれたのは長谷川実代さん(コミュニケーション学部1年)でした。「親善大使になったのは、たくさんの方の協力のおかげ。1年間、新次郎池の魅力を伝えられるように頑張りたい」と嬉し涙を浮かべながら、意気込みを語りました。

クイズイベント「東経大王II」

昨年度よりパワーアップした来場者参加型クイズイベント「東経大王II」。アニメ、歴史、食べ物などの問題が出題され、豪華景品をかけての大勝負でした。参加者は「問題が難しかったが、楽しかった」などと感想を寄せました。



編集後記

本祭2日目は晴天に恵まれ、多くの方が来場しました。東経大王II、池コン、プロレスなど2日目限定のイベントが盛りだくさんで、どこを見て回ろうか迷ってしまうくらい充実していました!

学生広報スタッフ
コミュニケーション学部1年
吉野 璃音

~ TKU cafe ~ 無料喫茶

2号館B101教室ではお菓子1つと飲み物1杯が無料で提供される「TKU cafe (無料喫茶)」が終日大盛況でした。



北海道美瑛町・新潟県新発田市との 交流企画実施報告

東京経済大学では、北海道美瑛町や新潟県新発田市において、地元の方々と交流を深め、学生自身の研究も深める目的で、活動を行うゼミやサークル等の団体を募集し、採用された団体へ援助を行っています。

2024年度は北海道美瑛町での企画に5団体、新潟県新発田市での企画に4団体が応募し、夏季休暇期間中に7団体が交流企画を実施しました。このうち4団体の活動内容をご紹介します。

REPORT

北海道美瑛町 との交流企画実施

経済学部・経営学部

尾崎寛直ゼミ

当ゼミでは、〈机上学習〉と〈実践活動＝社会福祉法人等3社との協働による就労支援事業〉の2本立てのゼミ活動を行ってきた経緯から、美瑛町交流事業では、町役場担当者と相談し、町内の障害福祉に携わる社会福祉法人等との連携を合宿のメイン企画として位置付けさせていただきました。

こうした交流事業については本学で前例がないようで、町役場の方でもかなり意気込んで交流プランを練ってくださったことに感謝しております。現地では、実際に当事者と協働した農作業（農福連携事業）で全員が一緒に汗を流し、体験。学生が当事者の方々の働きぶりや

技術力を間近で見ながら一緒に作業し、ジョブコーチの関わり方も見ることでできたことは大きな意義があります。

その後はゼミメンバーを分割し、①障害児を含めた放課後等デイサービス、②就労継続支援事業の作業所、③障害程度の重い方の活動を支援する生活介護事業所（2カ所）、と異なる現場で種々の障害福祉サービスを視察し、共同作業に参加させていただきました。学生らは日頃の東京と異なる、豊かな自然・地域社会を基盤にした活動の意義を感じたようです。「福祉は施設だけでつくるものではない」（3年女子学生）との感想にあるように、地域と一体となった福祉の本質



を理解できたようです。後期のゼミでは、各グループの学びの成果を報告し合う場を設け、美瑛町夏合宿の意義を大いに感じた次第です。（経済学部教授 尾崎寛直）

経済学部・経営学部

森岡耕作ゼミ

今回の企画では、美瑛町と連携し、町役場と協力してオーバーツーリズムの課題解決に向けた取り組みを実施しました。事前に、ゼミでオーバーツーリズムに関する事例探索や理論学習を行い、現地ではフィールドワークと聞き取り調査を実施しました。地域住民や観光関連事業者から意見を収集し、それらを基に3つのグループに分かれ、美瑛町に特有のオーバーツーリズム問題を特定し、その解決に向けた施策を考案しました。そして、観光協会の事務局長や町役場の担当者の前で、調査結果と提案を報告し、貴重なフィードバックをいただきました。

成果として、マーケティングの観点か



ら新しいアイデアを提供でき、特に観光客の流れをコントロールし、地域資源の持続可能な利用を促進するための施策が評価されました。しかし、オーバーツーリズムの本質的な解決には、短期的対応に加え、美瑛町との継続的な連携が必要で



あること、つまり、この取り組みが続くことで、地域厚生と観光産業のバランスを保ちながら、美瑛町の持続可能な発展に寄与できるということを担当者の方と確認しました。総じて、学びの多い企画となりました。（経営学部准教授 森岡耕作）

こくスマ!

東京経済大学まちづくり学生団体「こくスマ!」は8月27日から28日にかけて新潟県新発田市に行って参りました。新発田市は大学創立者である大倉喜八郎翁の功績を学び、現地の方々と交流することを目的として、大倉喜八郎関連施設の見学、当日行われていた城下町新発田まつりでのボランティア活動を行いました。

大倉喜八郎関連施設の見学では、別邸である蔵春閣を訪問しました。そこで施設の方のお話を聞きながら、大倉翁の功績を今一度確認することができました。

ボランティア活動では、城下町新発田まつりの会場である新発田駅周辺の清掃



活動を行いました。気温が30度を超え蒸し暑さも感じましたが、こくスマ!メンバーのみなでたくさんのごみを回収し、新発田市の綺麗なまちづくりに貢献することができました。

これらの活動で我々は「進一層」という言葉を改めて学びました。「進一層」とは自ら進んで行動し、奉仕や学習を推し進めることで、一層の成長と社会貢献がで



きるというもの。大倉翁の生まれ育った新発田市に行ったからこそ気づくことができました。

今後も我々こくスマ!は勇往邁進。「進一層」という大倉翁の魂を胸に秘め、市内イベントや学内での活動などに全力を注ぎ、精進して参りたいと思います。(こくスマ!代表 経営学部3年 藤本月渚)

現代法学部

羽貝正美ゼミ

今夏、8月29日から31日、本学の交流支援を得て、またゼミ活動の一環として、ゼミ生9名(3年6名、4年3名)とともに2泊3日で新発田市を訪ねる機会に恵まれました。同市の自治会・町内会の現状と課題に加え、まちづくり団体による「まちなか」活性化の取り組みについて、新発田市職員の方々をはじめ、活動の担い手の皆さんから直接、丁寧に時間をかけてお話を伺うことができ、ゼミ全体の共通テーマでもある「自治」の意義と課題を再認識する機会となりました。実際に「まちなか」を歩いて巡る時間もあり、「まち」を内と外の両面から知ることができたといえます。

少子高齢化といえば、自然に重い話題に発展しがちですが、そうした状況の中で



も、自ら発案し、共感する仲間とともに行動して、多様な世代に働きかけながら、「まち」の価値を高め、その魅力を再生しようとしている市民がおられること、また市役所新庁舎の立地と市民が自由に使える1階コモンスペース(FMしばたの発信拠点でもありました)にもみてとれるように、市も公民連携とともに「まちなか」の将来を見据えながらまちづくりに工夫を凝らしていることに大いに学んだ3日間でした。



た。加えて、地元の敬和学園大学との合同ゼミも実現し、学生たちが様々な「まちづくり」に関わりうることを実感した次第です。最終日には、本学OBの内本隆さんのご案内で市内要所を巡る歴史散策の時間でもて、嬉しい交流にもなりました。

多くの方々にお世話になったことを感謝し、交流を通して学んだことを今後のゼミ活動に大いに活かしていきたいと思っています。(現代法学部教授 羽貝正美)

2025年度
募集
(予定)

学生委員会では、2025年度も新潟県新発田市との交流企画、北海道美瑛町との交流企画を募集予定です。ゼミやサークル等の団体での応募が可能なので、興味のある団体は、次年度の応募をお待ちしています。

- ✓ 大学からの援助金があります!
- ✓ 来年度の募集要項は、2025年4月にTKUポータルで公開予定です!



交通に興味を持ったきっかけと、これまでの鉄道との関わりについて教えてください。

自宅から中央線と総武線が見えたということもあり、物心が付いたころから鉄道が好きでした。特に、国鉄時代の車両全体が塗装されたカラーリングが好きで、見ていっただけで楽しい気分になりました。子供の頃は鉄道写真を撮ったり、プラレールやNゲージで遊んだり、鉄道ファンがやることはほとんど経験しました。大学を選ぶ際にも、鉄道に関わる分野を選びたいと考えました。鉄道車両を作ることができる工学部と迷いましたが、文系を専攻していたので、鉄道と関わりのある経済学部に進みました。大学では、交通系のゼミに入り交通関係の研究をしていました。現在も鉄道が好きで、全国各地の電車に乗っています。新しく出来た第三セクター等を除いて、ほとんどの路線を乗り尽くしていると思います。

青木ゼミではどのような活動を行っていますか？

国分寺駅前の再開発事業やLRT計画など、交通やまちづくりに関わる研究を

しています。

毎年、国分寺市にある本多公民館で、学生たちがテーマを決めて調査した内容の発表やプラレールの展示を行っています。また、大学生観光まちづくりコンテストにも参加しています。今年度は、チーム青木ら3人が作成した「とみおかスポーツデイスカバリー」のプランが準グランプリを受賞しました。取材先へのアポイントメントやグループワークを通じて調整力や提案力、プレゼンテーション能力などを身に付けられるようにしています。研究だけではなく、大学周辺を散策してその街の魅力を見つける「巡検」やOB会、ゼミ合宿などのレクリエーションも行っています。

先生が考える交通・まちづくりの魅力とは？

交通が整備されることにより、地域が発展し、社会が豊かになることだと思います。今まで不便だった住宅地や畑が魅力ある街並みに生まれ変わることに関われる、やりがいのある分野だと思います。

一方で、新たに導入する交通サービスを検討する際に、どのようなアプローチを行い、どのような枠組みを作り、社会をより良くするための議論は、選択次第では街の未来が変わるので、とても難しいです。例えば、新たに都市を形成する際には、高規格道路を整備するべきという意見と高速鉄道を整備するべきという両者の意見が出ると思います。双方が納得した上で適切なコンセンサス形成を行うことは、長い時間がかかります。

正解のない分野なので、1つのことを解決すると別の問題が出てくることもよくあります。また、交通を整備するための政策誘導や補助金の制度をその地域にあった形で一から作る必要もあります。さらに、人口や経済の予測を行い、輸送力



や地域力に対して適切なアプローチができていっのかを検討することも大切です。解決するべき課題が多い分野ですが、成功すればその地域の利便性向上や魅力創出に直接繋がる分野なので、より多くの人に興味を持って貰えると嬉しいです。

学生時代にやるべき経験や、やらなくて後悔したことはありますか？

学生時代にやるべきことは、数多く経験し視野を広げることです。社会人になると、世の中の多くの疑問や問題点に触れます。これらを解決するためには、単に専門分野の知識だけでなく、広い視野と多様な経験が求められます。例えば、様々な分野の本を読んだり、旅行を通じて新しい視点を得たりすることです。こうした知識は、直接は関連しないように見えても、将来的に思わぬ形で役立つことがあります。

学生時代にやらなくて後悔したことは、具体的にはわからないです。振り返れば、もっとやっておけばよかったと思うこともあります。自分が関わっていない分野の可能性は、気づけないことが多いです。私の場合、焼き鳥屋でのアルバイトを経験しましたが、それ以外にも自分の可能性を広げるものはあったのかもしれないですね。大学生活では、学びの幅を広げ柔軟な視点を持って日々を過ごしてみてください。

おすすめの本はありますか？

私はジャンルに縛られない読書をお勧めします。経済学を学んでも、経済書だけに頼るのではなく、古典、哲学、文学、歴史など多様な分野に目を向けるのです。特に名著と呼ばれる、時代を超えて読み継がれる本には何かしらの価値があるので、ぜひ読んでみてください。

おすすめの本を挙げるとしたら、福沢諭吉の「西洋事情」を紹介します。この書では、異なる立場や意見を持つ三者の対応が描かれており、自分の意見をしっかりと持つことの大切さを教えてくれます。学生時代こそ、多様な本に触れる絶好の機会なので、自分の知識を深めてみてください。将来思わぬ形で人生に役立つかもしれません。

学生に向けてのメッセージをお願いします。

時間を有効に使い、興味のあることに積極的に挑戦してみてください。大学生の間は、多少の失敗があっても許される時期なので、恐れずに取り組むことが大切です。その過程で、自分の苦手分野に気付くことも非常に重要です。多様なことに挑戦していれば、新たに得意分野を見つければ、自分の向き不向きをしっかりと理解し、成長の機会として活かしてください。



取材・撮影

学生広報スタッフ 経営学部3年 福原英和
キャリアデザインプログラム1年 森木咲瑛

東経大で出会った「生涯の師」への手紙

～大学は学生と教師の出会いの場～

自由の学府・東京経済大学で生涯の師と出会った学生に思いを綴っていただきました。
先生からの返信も併せてご紹介します。



学生から先生へのメッセージ

しまぬき あゆむ
島貫 歩夢
現代法学部 現代法学科 4年



寺島先生との出会いは、私の大学生活をより豊かなものにし、また、私の人生に多大な影響を与えてくださいました。

寺島ゼミに所属した3年間、ゼミ長・勉強支援ボランティア・「聴く」を題材にしたプレゼン・合宿の運営など、多くの貴重な経験をさせていただきました。特にゼミ長の経験に関しては、寺島先生の優しく的確なお力添えのおかげで、大きな不安を感じることなく、自身のリーダーシップをさらに伸ばすことができました。ゼミ生それぞれの意見を調整し、全員が納得できる結論に導く過程において、自分の調整力や決断力も大いに向上したと実感しております。

昨年、寺島ゼミで学んだ「傾聴」をテーマにした心理学は、特に対人スキルを高めるうえで大きな助けとなりました。この学びは、就職活動にも大きな影響を与えています。私は人材を扱う会社に内定をいただいておりますが、ゼミでの経験を通じて相手の考えや感情を理解し、適切なコミュニケーションを図ることの重要性を、仕事で大いに活かせると確信しています。このようなスキルを身につけることができたのは、寺島ゼミのおかげだと深く感謝しております。

先生に出会えたことは、私の誇りです。心から感謝申し上げます。



島貫さん、素敵なお手紙をありがとうございました。

島貫さんについて最初に印象に残っているのは、グループプレゼンの場面です。発表時間が余りそうになったときに、黒板を使ってアドリブで分かりやすい追加説明を始めて、素晴らしいプレゼン力だと感心しました。また、ゼミ長を決める際には、上級生が多くいる中で、真っ先に立候補してくれましたね。今どき珍しい積極性と対応力のある学生さんがゼミに入ってきたと、ワクワクしたことを覚えています。

昨年度は、多くのボランティア活動に率先して参加していました。特に学習サポートの場では、お子さんが主体的に勉強に取り組める方法を熱心に考えていました。今年度も、合宿班のメンバーと協力して、合宿を成功に導いていました。どの活動にも熱意を持って取り組む姿勢が印象的でした。

島貫さんはゼミ長として、本ゼミの礎を築いてくれました。心から感謝しています。卒業後は人材を扱う会社に勤めるとのこと、ピッタリですね。人に関わるお仕事ですので、心理学のゼミで学んだことを活かしていただけると嬉しいです。今後のご活躍も楽しみに、応援しております。卒業後も、ふと思い出したら、ぜひ大学に遊びに来てくださいね。



先生から学生へのメッセージ

てらしま ひとみ
寺島 瞳
全学共通教育センター 准教授



キャリアセンターにオンライン選考用の 個人利用ブースを設置！就職活動で利用可能

本学キャリアセンターは2024年8月、オンライン選考用の個人ブースをキャリアセンター内閲覧スペースに設置しました。就職活動のオンライン面接などに参加する際、個人で利用できます。

オンライン選考の急増に伴い、学生から「授業の前後に学内でオンライン選考に参加するための個人利用できるスペースはないか」という問い合わせが多く寄せられ、設置に至りました。ブースには電動昇降機能のある机や照明、換気扇が搭載されているため、最適な空間でオンライン選考に臨むことができます。また、1台は「ユニバーサルタイプ」になっており、足元の段差がなく車椅子利用の学生が使用しやすい設計となっています。



第101回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会に出場



2024年10月19日(土)、立川市で第101回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会が開催され、本学陸上競技部の学生が出場しました。結果は26位で、目標としていた19位には届かなかったものの、前回大会より順位を3位上げ、2名の選手が自己ベストを更新する大健闘となりました。

国際コミュニケーション学科の学生が 「グローバルインターンシップ」から帰国しました

コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科の学生が、この夏「グローバルインターンシップ」に参加し、約3週間の留学を経験して研修先のオーストラリア・シドニーから9月に帰国しました。

「グローバルインターンシップ」は、国際コミュニケーション学科独自の海外研修プログラムの1つで、異文化を理解するために必要なことやグローバル社会で働くことについて学ぶ「グローバルキャリア論」と連動して、学びを深めるものです。シドニーの研修では、現地でホームステイをしながら、語学研修や日系メディアである「日豪プレス」で就業体験を行いました。

2024年度9月卒業式挙行、52名が新たな一歩へ

2024年9月13日(金)、大倉喜八郎進一層館(フォワードホール)で2024年度9月卒業式を行いました。今年度は学部生44名と大学院生8名がそれぞれの新しい道へ進みました。

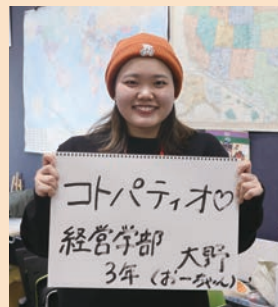
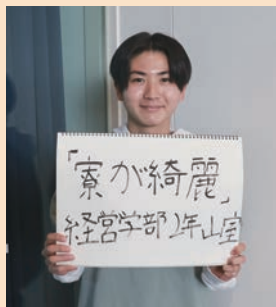
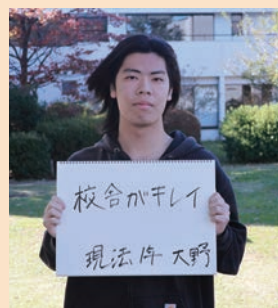
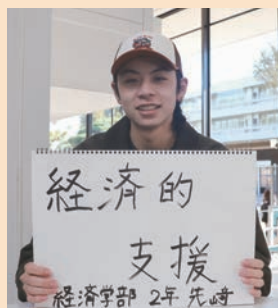
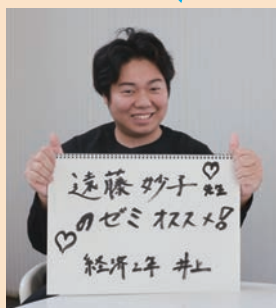
岡本英男学長は式辞で、悪化する国際情勢や地球環境問題に触れ、地球社会の持続的発展に向けて何ができるか考えて欲しいと述べ、卒業生の門出に期待の言葉を贈りました。菅原寛貴理事長は祝辞で、「The world is your oyster. The future is wide open.」と英語でスピーチをし、前途洋々な未来を信じて取り組んでほしいとメッセージを贈りました。また、本学の前身・大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎が大切にしていた「自助・努力・誠意」の理念とともに、これからの人生を歩んでほしいと伝えました。

今夏は9ゼミが海外へ 2024年度夏季海外ゼミ研修成果報告会を実施

2024年10月17(木)～10月28日(月)にかけて、2024年度夏季休暇期間に海外研修を行ったゼミ生が研修報告会を実施しました。今夏は大塚淳ゼミ(イタリア)、田村和人ゼミ(韓国)、羅敏鎮ゼミ(マレーシア)、関昭典ゼミ(ネパール)、中村忠司ゼミ(シンガポール)、高井良健一ゼミ(韓国)、田島博和ゼミ(アラブ首長国連邦)、関口和代ゼミ(モンゴル)、カレイラ松崎順子ゼミ(イギリス)の9ゼミが海外研修を実施し、各国での研修内容を発表しました。

イマドキのTKU生

～ 東経大の魅力 ～



※2024年11月取材

